

平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

生徒一人ひとりの可能性を最大限に伸ばし、自分らしい生き方を実現するための力を養い、社会の一員として生きがいを持ち、積極的に社会に参画する意欲と態度を育成することをめざした教育活動を行う。 そのために以下の5点を重点目標として学校経営に取り組む。

1. 生徒一人ひとりの人権を大切にし、安全・安心に学習活動に専念できる学校
2. 生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた授業を提供できる学校
3. 生徒一人ひとりの自立と社会参加を実現するために、進路の取組み及びキャリア教育を推進する学校
4. 地域の生徒一人ひとりの支援するために、特別支援教育のセンター的機能を発揮する学校
5. 生徒一人ひとりの安定した生活の確立のために、家庭及び地域諸機関との連携を推進する学校

2 中期的目標

1. 生徒一人ひとりが人権を大切にされ、安全・安心に学習活動に専念できる学校（安全・安心な学校づくり）
 - (1) 生徒の人権を大切に教育を推進する。
 - * 年間で2回、人権研修を行う。
 - * 生徒の人権を大切にし、一人ひとりに真摯に向き合った支援を行う。
 - (2) 大災害時を想定し、学校内外での対応を決定する。
 - ア 大災害時の対応マニュアルを策定する。
 - * 大災害に対する対応マニュアルを完成させる。H29年度以降は、保護者にも周知するとともに、より実質的な対応マニュアルへの更新を継続的に実施していく。
 - * 引き続き、PTAと連携し、必要な備蓄品の購入を検討する。
 - イ 災害時備蓄品の充実を図る。
 - * 生徒個々に必要な備蓄品（薬剤・嗜好品・下着等）に関して充実をはかり、簡易トイレを備えていく。
 - ウ 大災害時に関する研修を前半期に1回実施する。
 - (3) 防犯訓練を実施する。
 - * 不審者対応訓練を実施する。
 - (4) 個人情報を守る管理体制を徹底する。
 - ア 通学バスに載せる個人情報と画像等の個人情報に関して、管理簿による確実な管理。
 - イ 情報セキュリティーの安全管理の徹底。
 - * 定期的な安全管理の周知と、配付する個人情報の誤配付等防止の徹底をはかる。
2. 生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた授業を提供できる学校（授業力及び専門性の向上と、交流及び共同学習）
 - (1) 教員の授業力の向上及び知的障がい教育における専門性の向上を図る。
 - ア 校内での研究授業を実施し、授業力の向上を図る。
 - * 初任者については、年2回の研究授業と充実した研究協議を行う。
 - * 初任者は、年間5回以上、先輩教員の授業を見学し、自身の授業力向上に活用する。
 - * 初任及び教育実習生の指導・助言教員として、中堅やベテラン教員が担当。
 - * ベテラン教職員に関しては、授業を記録し、全教職員で研究協議を行う。
 - イ 障がい特性・個に応じた授業に関する校内研修を実施し、知的障がい教育における授業力の向上に努める。
 - * PT, OT, ST等を活用し、教員に対して専門性向上のための指導・助言を行う。
 - * 支援・研究部を中心に専門的な校内研修を行う。合理的配慮に関する研修、PT, OT, ST等の中の講師から指導を受けた本校教員による研修、と合計2回実施する。
 - ウ 専門性の向上につながる研修に積極的に参加する。
 - * 中学部・高等部それぞれ可能な範囲で、校長マネジメント経費を活用し、専門性の向上につながる研修に参加する。その成果を教職員に伝達する。
 - エ 特別支援教育に関する専門性の向上を図る。
 - * コーディネーターが中心となり、特別支援教育の専門知識・技能の向上をめざして教職員に対してミニ研修を実施する。
 - (2) インクルーシブ教育の推進に向けて、交流及び共同学習と障がいの理解啓発を推進する
 - ア 交流及び共同学習を行う
 - * 中学部、高等部ともに普通学校との学校間交流を1回以上実施する。
3. 生徒一人ひとりの自立と社会参加を実現するために、進路の取組み及びキャリア教育を推進する学校（社会的自立への支援の充実）
 - (1) 生徒の卒業後の自立と社会参加を見据え、生徒の持つ可能性を最大限に伸ばすように努める。
 - ア 高等部卒業後の進路に向けて、実習先を確保し、高等部全学年での実習（体験実習・現場実習）を充実・定着させる。
 - * 生徒数に合わせた実習先開拓のための障がい者福祉施設・企業への訪問を引き続き行い、実習時の教員の巡回指導も充実させる。
 - イ 卒業後すぐに就職又は就労移行事業の利用をめざす生徒にはクリーンコース（職業コース）を中心に、希望者全員の就労実現に向けた指導を行う。
 - * 校内での作業・実習を充実させていく。
 - * H29年度以降も高等部各学年の生徒数を勘案し、クリーンコース（職業コース）を展開する。
 - ウ 中学部での進路学習を充実させるとともに、高等部の生徒への社会参加へ向けての意識を向上させる。
 - * 中学部では、中学部3年生へのクリーンコースを含む職業授業への見学（体験）を含めた中学部生徒への進路学習を充実させる。
 - 高等部では、卒業後を意識した、卒業生の講演やビデオを活用しての進路学習を実施する。さらに、政治的教養を育む教育を系統的に実施する。
 - (2) 生徒の自主登下校の支援に努める。
 - ア 高等部卒業後の自立と社会参加に向けて、継続した自主登下校を支援を行う。
 - (3) キャリア教育に関する、中学部・高等部を見通した教育課程の「ねらい」を策定する。
 - ア キャリア教育の視点を取り入れた、中学部・高等部と連続するキャリア教育の視点からの「ねらい」を定める。H27年度にPTで整理された「四條畷校版キャリア教育骨子」をもとに、キャリア教育で育む諸能力のマトリックスを完成させる。
4. 地域の生徒一人ひとりの支援に寄与するため、特別支援教育のセンター的機能を発揮する学校（センター的機能）
 - (1) 地域のセンター的機能を果たす学校として地域支援の充実に努める。
 - ア 北河内地域の支援学校の一つとして、他の支援学校と連携・協力しながら、地域支援を充実させる。
 - * H27年度と同様、前年度の実績を元に地域支援の充実に図り、巡回相談や講師派遣の依頼には全て応じていく。市の各種協議会や事例検討会等にはコーディネーターと共に経験の少ない教諭も出席・協力する。
 - * 通学区域の市教育委員会と連携・協力を強化し、市教委が実施する研修会を支援する。

府立交野支援学校四條畷校

5. 生徒一人ひとりの安定した生活の確立のために、家庭及び地域諸機関との連携を推進する学校（家庭及び地域諸機関との連携）
- (1) 生徒のニーズや状況に応じて、福祉機関と連携しながら随時ケース会議及び事例検討会を行う。
 - (2) 生徒のニーズに応じて、医療機関と連携しながら生徒の健康支援を行う。
 - (3) 家庭及び地域からの協力を広げるために、HPを通しての学校情報の発信を充実させ、学校案内を更新する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成28年10月実施分] (別紙)	学校協議会からの意見
<p>○生徒・保護者・教職員を対象に実施 回答率は生徒73%、保護者80%、教職員91%</p> <p>【教育活動・学校運営に関して】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校・クラスが楽しい」と回答している生徒・保護者が80%を超えており、概ね生徒にとって楽しい学校・クラス運営が行われている。 ・「安全・安心な学校生活」「学校行事の工夫」「学校情報の提供」「ニーズに応じた健康支援」「生徒のニーズによる個別の指導計画に基づく評価」「教職員の専門性及び生徒個々への指導」についての保護者回答では、90%以上の高評価を得ている。一方、教職員の「個別の指導計画」「専門性及び個々への指導」に関しては74%、84%と肯定度は高いが、保護者に比べて数値が低くなっている。 <p>【保護者との連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者に関しては、PTAによる教職員との連携度、HPの閲覧回数と活用度がかなり増加している。 ・「教育方針の保護者への伝達」「保護者の相談や悩みへの対応」については80%を超える肯定度である。 <p>とくに、教職員の「情報交換を主とする保護者との連携」では、90%を超えている。</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設設備の肯定度に関しては、40%を切っており、教職員もかなり肯定度が低い。 ・進路指導関連の質問では、高等部の教職員と保護者ともに80%以上と肯定度が高いが、中学部の教職員が30%、保護者が48%と肯定度が低い。 ・准校長の、リーダーシップの向上と学校経営と教育方針の考え方の明示。 	<p>第1回（6月27日）</p> <p>○教員の専門性について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5名の初任者が採用された。 ・学校組織として、初任者等を育成していくシステムが大切だと考えている。 ・安全安心を基本としながら、「子どもが好き」「授業が楽しい」といった教員としてのやりがいを伸ばしていけるようにしたい。 <p>○学校ホームページについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・HPは地域の方々への情報発信ともなるので、可能な限りこまめな更新を心がけたい。 <p>○施設の老朽化について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設設備は人命に関することからの改善が要求される。計画的に改築を行わないといけない。 <p>○18歳からの選挙権について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四條畷市選挙管理委員会に協力依頼をし、実際の投票箱等を使った模擬投票を行った。 <p>第2回（12月5日）</p> <p>○鳥取地震時の対応について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幹部職員を中心に対応した。組織対応には不十分な所があったので、今後の対応の確認を丁寧に実施。 <p>○学校教育自己診断について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一見少ない数値でも数名の人数になるので、否定的項目の検証も行ってほしい。 <p>○内部改修について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の活動の妨げとならないよう、安全を第一に工事を行ってほしい。 <p>第3回（2月20日）</p> <p>○学校経営計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・きっちり経営をされている。自身の経営（交野自立センター）の参考にさせてもらっている。 ・就職した人のフォローを大切にしてほしい。辞めた人の立て直しに時間がかかる。 <p>○地域連携について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少子化問題を含め、地域の人材を活用した世代間交流を大切にしてほしい。 <p>○学部間交流について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引継ぎだけでなく、小中高へと連なる教育課程の編成が課題である。進めていってほしい。 <p>○PTAについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者のPTA離れが課題。親が楽しく参加できる在り方を進める必要がある。 <p>○専門性向上について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の多くを占めるようになってきた若い世代はすぐ上がらないので、専門性の引継ぎの課題がある。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 安全安心な学校づくり	<p>(1) 生徒の人権を大切にす る教育 ア・人権研修 イ・寄り添った生徒指導</p> <p>(2) 大災害を想定し、学校 内外での対応を検討 ア・対応マニュアル イ・購入と持参備蓄品 ウ・大災害時対応研修</p> <p>(3) 防犯訓練の実施 ア・不審者対応訓練</p> <p>(4) 個人情報管理徹底 ア・個人情報管理の徹底 イ・情報管理研修実施</p>	<p>(1) ア・年に2回、人権研修を行う。 イ・生徒に寄り添った生徒指導を行う。</p> <p>(2) ア・大災害時の、生徒の在校・登下校時を想定した防災マニュアルを完成させる。 イ・生徒個々に必要な備蓄品（薬剤・嗜好品・下着等）を充実させ（3～4割）、今年度から簡易トイレを購入していく。 ウ・大災害時対応に関する研修を前半期に実施する。</p> <p>(3) ア・不審者対応訓練を実施する。</p> <p>(4) ア・通学バス携帯と画像等の個人情報の管理を徹底させる。 イ・個人情報の持ち出しに関しては、管理簿を利用して情報管理を徹底させる。 ・連絡帳に入れる個人情報には細心の注意をはかるとともに、ヒューマンエラー防止研修を実施する。</p>	<p>(1) ア・研修後、教職員の人権意識が向上したか。（保護者向け・教職員向け学校教育自己診断肯定度80%） イ・教職員は生徒を、日々大切に支援・指導しているか。（生徒向け学校教育自己診断肯定度80%）</p> <p>(2) ア・年度内に大災害時のマニュアルを完成させたか。 イ・年度内に備蓄品を充実させたか。</p> <p>ウ・研修後、教職員の災害時に対する意識が向上したか。（教職員向け学校教育自己診断肯定度80%）</p> <p>(3) ア・不審者対応訓練を実施できたか。</p> <p>(4) ・教職員に対して個人情報セキュリティを遵守する意識向上を図れたか（教職員向け学校教育自己診断肯定度90%）。</p>	<p>(1) ア・研修は7・10月に実施。保護者:82%、教員:74% (○) イ生徒向けアンケート肯定度70% (わからない20%) (○)</p> <p>(2) ア・役割分担して進めている イ・発注の準備中 ウ・外部講師による研修を8月に実施:肯定度64% (○)</p> <p>(3) ア・7月に実施済 (○)</p> <p>(4) ア・専用封筒を用い、随時厳重に受渡しを実施 (○) イ・管理簿による実施 (○) ・管理体制を整え、9月に校内研修実施:肯定度87% (○)</p>

府立交野支援学校四條畷校

2 授業力及び専門性の向上と、交流及び共同学習	<p>(1) 教員の授業力の向上及び知的障がい教育における専門性の向上</p> <p>ア・研究授業・研究協議の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初任者育成のOJT ・専門性の伝承 <p>イ・校内研修の実施</p> <p>ウ・研究機関等が実施する研修受講</p> <p>エ・専門性向上研修</p> <p>(2) 交流及び共同学習</p> <p>ア・他校種との学校間交流の実施</p>	<p>(1)</p> <p>ア・初任の教諭は年2回の研究授業を実施し研究協議を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初任者は年間5回以上、先輩教員の授業見学を行う。 ・ベテラン及び中堅教員が、指導・助言者として初任及び教育実習生の相談・支援を行う。 ・ベテラン教職員の授業を記録し、研究協議を全教職員で行う。 <p>イ・合理的配慮に関する研修、PT、OT、ST 等から指導を受けた本校教員による研修を行う。</p> <p>ウ・専門性向上に関する研修会への参加。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・習得した専門性を全教員へフィードバックする。 <p>エ・コーディネーターによる専門性向上のための研修を実施する。</p> <p>(2)</p> <p>ア・各学部で、年間1回以上、他校種との学校間交流を実施する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・初任者の研究授業を実施し、充実した研究協議ができたか。(教職員向け学校教育自己診断肯定度 80%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初任者は、授業見学を通して、授業実践に活用できる学びを多く発見できたか。(毎回の授業見学シートの提出) ・初任者及び教育実習生への相談・支援を十分に行えたか。(教職員向け学校教育自己診断肯定度 80%) ・ベテラン教員による授業を元に、有意義な研究協議ができたか。(教職員向けアンケート肯定度 80%) <p>イ・PT、OT、ST 等を活用して、教員の専門性向上に寄与できたか。(教職員向けアンケート肯定度 80%)</p> <p>ウ・専門性の高い研修へ教員を派遣し、受講した内容を校内にフィードバックできたか。(今後の活用をふまえた報告と伝達講習受講者アンケートの肯定度 80%)</p> <p>エ・コーディネーターによる研修は、教職員の専門性向上に寄与したか。(受講者アンケートの肯定度 80%)</p> <p>(2)</p> <p>ア・交流及び共同学習が、地域の中学校や高等学校の生徒との交流意識を向上させたか。(生徒向け学校教育自己診断肯定度 80%)</p>	<p>(1)</p> <p>ア・初任者支援肯定度 58% (△)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2/9 に全員が研究授業終了。見学も2月で全員5回終了 (○) ・初任者支援肯定度 58%(△)。毎月、首席が懇談会を実施 (○) ・反省アンケートで約8割が肯定的評価 (○) <p>イ・3月23日に実施。8割の教職員がアンケートで高い評価 (○)</p> <p>ウ・ユニバーザルデザイン(日野市)及びY7教育(相模原市)の授業視察及び協議参加：伝達講習アンケートの肯定度 94%、活用希望の感想多い (◎)</p> <p>エ・初任者を中心に3回実施：肯定度 76% (○)</p> <p>(2)</p> <p>ア・生徒の肯定度 66% (わからない22%) (○)</p>
3 社会的自立への支援の充実	<p>(1) 卒業後の自立を見据え、生徒の持つ可能性を最大限に伸ばす。</p> <p>ア・実習先の確保と、実習の充実</p> <p>イ・校内の実習とクリーンコースの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・希望者の就労実現 <p>ウ・中学部の進路学習の充実と高等部生徒への社会参加意識向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・政治的教養を育む教育の実施 <p>(2) 生徒の自主登下校への支援</p> <p>(3) キャリア教育の視点から、中学部・高等部を見通した教育課程骨子の策定</p>	<p>(1)</p> <p>ア・進路部を中心とする高等部教員が生徒が実習に至るまでの様々な手続きや、実習先での様々なノウハウを学ぶことで実習を充実させ、また、企業や障がい者福祉施設等の実習先の開拓を行う。</p> <p>イ・少人数でのクリーンコースの授業展開を工夫し、授業内容を充実させ、実習の更なる充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職又は就労移行事業の利用をめざす高等部3年生の生徒への指導を充実させ、就労を実現する。 <p>ウ・中学部3年生のクリーンコースを含む職業の授業を見学(体験)を含めた中学部の進路学習を充実させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校外の実習体験や企業見学、卒業生による講演会等を通して、高等部生徒の社会参加へ向けての意識を向上させる。 ・高等部の生徒に政治的教養を育む教育を実施する。 <p>(2) ・生徒の社会参加をめざした、自主登下校の支援を保護者と協力しながら継続的に実施する。</p> <p>(3) ・キャリア教育の視点を取り入れたキャリアマトリックス(中学部・高等部を見通したキャリア教育を育む諸能力の俯瞰図)を完成させる。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・高等部教員が積極的に実習先に出向き、その考え方や状況を把握し、実習先での生徒の課題や学校としての課題等に気づくことができたか。(全巡回指導 30 回以上) また、実習先の開拓を行えたか。(開拓訪問 50 ヶ所以上)</p> <p>イ・少人数でのクリーンコースの指導方法・指導内容等に新たな工夫が見られ、実習は充実したか。(進路指導の充実)(教職員向け学校教育自己診断肯定度 80%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高等部3年生の希望者全員が左記に就労できたか(100%)。 <p>ウ・中学部について、3年生にクリーンコース等の職業授業を見学(体験)させ、1年～3年までの進路学習を実施できたか。(教職員向け自己診断肯定度 80%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高等部生徒の社会参加・政治的教養に関する意識を向上させたか。(生徒向け学校教育自己診断肯定度 80%) <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自主登下校ができる生徒を、通年で増加させたか。 <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリアマトリックスを完成させたか。 	<p>(1)</p> <p>ア・巡回 53 回。開拓訪問 55 ヶ所 (◎)</p> <p>イ・実態に合せた実習、コース選定マニュアルを改善(生徒のニーズの重視とコース決定フェック票の簡素化)。高等部の指導等の自己肯定度：80% (○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・100%の見込み(移行及び福祉) <p>ウ・中学部：進路学習 30% (△) 意識づけ 60% (○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高等部：進路学習 80%(○) <p>・生徒向けアンケート肯定度 22% (わからない47%)</p> <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 28 年 4 月当初 21 人 → 28 人に増加 (○) <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育のキーワード策定と具体的な活動表に変更(△)
4 センターの機能	<p>(1) 地域支援の充実</p> <p>ア・コーディネーターを中心とするチームによる地域支援の充実</p>	<p>(1)</p> <p>ア・地域からの巡回相談や講師派遣の依頼には、すべて応じる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各市の各種協議会や事例検討会等にはコーディネーターと共に経験の少ない教諭も出席・協力する。 ・通学区域の市と連携・協力し、研修会を支援する。 	<p>(1)</p> <p>ア・地域からの巡回相談や講師派遣の依頼に、すべて応じたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経験の少ない教諭が地域の実情を知り、自分に必要な専門性を明らかにできたか(のべ10回以上)。 ・市との連携・協力のもと、研修会を実施できたか(若しくは検討が進んだか)。 	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回相談 47 回。巡回訪問 9 回。講師依頼派遣 12 回 (○) ・夏季休業中に一人一回で、計 5 回実施 (△) ・四條畷市と 8 月実施。他校と共同で 12 月守口市等と実施(○)
5 家庭及び地域諸機関との連携	<p>(1) 生徒のニーズや状況に応じた会議・検討会の実施及び保護者との連携</p> <p>(2) 生徒のニーズに応じた生徒への健康支援</p> <p>(3) 連携のツールとしての、学校情報の発信</p> <p>ア・ホームページによる学校情報の発信</p> <p>イ・学校案内の更新</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭への支援や生活指導的な支援等の必要な生徒に対して、校内のチームで取り組み、支援・研究部メンバーがコーディネーターと共に中心メンバーとなる。 ・校内ケース会議の事例をもとに、事例検討会を実施し、成功例・失敗例を具体的に検討する。 ・保護者連携を深めるためのスキルを学ぶ教職員向け研修会を実施する。 <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校医と連携しながら、生徒の健康支援を行う。 <p>(3)</p> <p>ア・「准校長室より」のブログ等によりホームページを充実する。</p> <p>イ・学校案内を更新する。</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内でチームとしての支援が必要なケースに、支援部メンバーがコーディネーターのアドバイスを受けながら、ケース会議等の中心となり、進言や提案が行えたか。 ・事例を通し、生徒や家庭に対するチームとしてのアプローチのノウハウ等を学ぶことができたか(8ケース程度)。 ・教職員の保護者連携に対する意識を向上させたか(教職員向け事後アンケート肯定 80%以上)。 <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒のニーズに応じた健康支援ができたか。(事後の健康改善が見られたか)。 <p>(3)</p> <p>ア・HP による学校情報の充実した発信が継続的に実施できたか。(保護者向け学校教育自己診断肯定度 80%)</p> <p>イ・学校案内を更新できたか。</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進言等を実施できている。ケース会議 15 回実施 (○) <p>・事例検討会は実施せず。代わりに福祉ササキ研修を実施 (△)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の肯定度 100%弱(◎) <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ニーズある生徒に対し、養護教諭中心に実施。心の健康相談は7件。ケース全てのニーズには応えられなかったが、概ね好評で、生徒の心の安定につながった。通年の体重管理者は 25 名で全員減量。食生活も改善。(○) <p>(3)</p> <p>ア・保護者向けアンケート肯定度 66% にアップ (○)</p> <p>イ・新しい学校案内を作成し、4月1日に発刊。(○)</p>